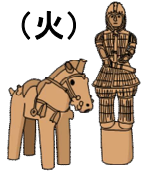


興津生涯学習交流館

出前授業レポート

静岡県埋蔵文化財センター

令和4年8月2日(火)



「アイデアが次々に生まれ、個性的な作品ができあがりました。」

興津生涯学習交流館が、歴史や文化遺産に対する興味・関心を高める目的で、小学1年生2人、2年生5人、3年生4人、4年生3人、5年生4人、6年生3人が、はにわが作られた意味や経緯を学習し、実際に粘土を使ってミニはにわをつくる体験を行いました。

ミニはにわ作り体験



はじめに、写真やはにわのレプリカを見ながら、古墳時代の話や、はにわが作られた意味などを簡単に説明しました。

次に、はにわを作る前に、はにわのレプリカを見ながら、どんなはにわを作るのかイメージをふくらませました。



「初めて粘土をやって、付けるのが難しかった。」

次に、袋から粘土を取り出して、3等分して、胴体を作ります。土の粘土を使うのは初めてだったので、思うように形が出来ず苦勞していました。残りの粘土で手や帽子などの部品を作って、胴体に付



けていきます。胴体に付けるのも難しかったようですが、頑張って付けました。最後は、目や口などをへらなどでかたどって出来上がりです。他の友達の作品も鑑賞しながら、個性的な作品に感心していました。

「土の粘土は、普通の粘土と違って、むずかかったけど、いい体験が出来た。」



「いろいろなはにわがあって、おもしろかった。」

担当者の感想

「古墳やはにわについて学習し、実際にはにわを作ることで、歴史や文化遺産に対する興味や関心が高まったと思います。日程は夏休みであり、小学生が参加しやすかったと思います。内容も座学だけではなく、はにわ作りという実体験があり、知的好奇心と物作りの楽しさの両方が味わえました。最初は何を作ろうか、戸惑う様子だった子どもたちも、作り始めたらアイデアが次々と生まれたようで、個性的な作品ができあがりました。一人一人の子どもたちに丁寧に接していただきました。アドバイスを受けて、子どもたちのはにわ作りにも一層熱が入り、満足のいく作品が出来たと思います。また、他の子どもの作品を見て、発想の面白さに驚いたり、感心したりして、新しい発見も出来たようです。」